

とうきょうすくわくプログラム活動報告書 4 歳児

テーマ 『室内でできる水遊び』

《テーマ設定理由》

酷暑で戸外に出ることも難しいこの夏。室内でも水を使って色々な遊びができることを経験してほしい。遊びの中から子どもたちに色々な気づきや発見が生まれてほしい。

《環境設定・準備したもの》

- ・卵パック、スポイト、水性ペン、バケツ、画用紙
- ・透明カップ、お花紙、重曹、洗剤、酢
- ・ペットボトルを切って布をつけたもの、シャボン液

《活動スケジュール》

① 7月2日	卵パックのスポイト遊び
② 7月25日	お花紙で色水作り
③ 8月8日	シャボン玉作り

《振り返り・気づき》

屋外だけでなく室内でも様々な形で水と触れ合いながら遊ぶことができる。これらの遊びの中で「一つのことに夢中になり没頭する体験」「新しい発見」や「不思議との出会い」がたくさんあったように思う。子どもたちの言葉や表情の中にも期待や驚き、楽しさや喜びがみられた。

年中の活動の中で行ったが、クラスでも毎日の中で繰り返し楽しめる遊びになったのもよかった。少しのアイデアと工夫で遊びがマンネリ化せず豊かになる。その時だけで終わらず次に繋がる楽しい遊びをこれからも考えていきたい。

《活動内容・子どもの様子》

活動①:子どもたちの声を丁寧に拾いたいと思い、少人数で行った。ペンで色をつける机と水を使う机を分けて設定。普段使わないスポイトに魅力を感じ夢中になる子どもたちの姿がみられた。

水性ペンでできた色水は透明で綺麗。できた色水をスポイトで画用紙に垂らすとぷっくりふくらむ。その様子を「グミみたい」「虹みたい」「シャボン玉みたい」「ぷるぷるしてる」とそれぞれの言葉で表現していた。



活動②透明カップにお花紙をちぎって入れる作業を各テーブルで協力して行う。一つのカップに一つの色で8種類。黙々と集中してお花紙をちぎる姿があった。できた頃合いを見て、保育者が実験。水、重曹、洗剤、酢を入れると・・・炭酸のように泡が出てくる様子に子どもたちは驚きの声。各テーブルでも同じようにやってみて間近で泡が出てくる様子を観察した。できたものをテラスでのジュース屋さん遊びにつなげることもできた。



活動③以前の観劇会のシャボン玉ショーで見た長いシャボン玉を作ってみようという計画。



ペットボトルを切ってシフォン布をつけたものにシャボン液をつけて思いきり吹くとシャボンがどんどん長くなる。大きく息を吸ってから吹くと長くなることに子どもたちが気付いていた。友達の様子を見て「やってみよう！」とチャレンジする子がたくさんいた。

